

2020
初春号
No.81

穂 濤
For WASEDA University Old Boys & Girls



リコーダアンサンブル「IL・LISO」

2019年忘年会

晴天に恵まれた12月8日（日）藤沢市民会館にて80名の会員が参加し、恒例の忘年会が盛大に開催された。永田昇会員と若手女性会員の開会宣言の後、まずはテーブル毎の出席者の自己紹介が始まった。

最初は、リコーダアンサンブル「IL・LISO」（イタリア語で「稲・米の意）の演奏。引き続き藤稲歌う会とコラボして、藤沢稲門会の会員であった磯部倅作曲の「遙かな友」で素晴らしいハーモニーを披露。アンコールでは会場全員で「青い山脈」を合唱し、大拍手を集めた。

内田進会長は「今年は令和と改

「青い山脈」を全員で大合唱!!



最後は会場全員で大合唱!

元し新しい年が始まり、恒例行事である箱根駅伝の応援も予選会を突破し無事行えるようになった。また、来年11月には田中愛治総長を招いて神奈川県支部大会が藤沢で開催される」と力強く挨拶。引き続き長瀬輝行元会長の乾杯で宴会は始まった。

今年のアトラクションは、2度目の登場となる「ミュージズ」の美しいデュオ。懐かしい昭和歌謡を中心とした歌声に酔いしれた。なお「ミュージズ」は、出場の抽選に当たれば、今年のNHKのど自慢に登場できるかもしれないとのこと、吉報を待ちたい。

昨年同様、入場時に抽選箱に入

れた番号札による籤引方式で、大抽選大会が洞江良会員の進行で始まる。

今年、4月に鬼籍に入られた久我陽一先輩の奥様から寄贈された、先輩が愛飲されていた久我メモリアルワインが賞品に加わり一層豪華な抽選会となった。運悪く何も当たらなかった参加者にも、おせち料理などに利用できる「クチナシの実」が配られ和やかに終了した。

最後は、有賀正義会員のリードで「都の西北」を高らかに歌い、令和元年の忘年会はお開きとなった。

年頭に当たって

会長 内田 進



新年おめでとうございます。今年も宜しくお願ひ申し上げます。

昨年は天皇陛下ご即位やラグビー日本代表ベスト8など明るいニュースがあった一方、相次ぐ台風

の被害や、当会の発展に多大なご貢献をいただいた諸先輩のご逝去に心を痛めました。

昨年の当会は、新入会員が17名（うち平成卒13名）で、お陰様で会員数450名台を維持できまし

た。

（山口金雄 記／写真 高野尚志）



癒しのハーモニー「ミュージズ」

た。諸行事は、地引綱が中止となりましたが、駅伝応援などは予定通り開催でき、11月には文化的行事として藤稲懇話会を始めました。今年には引き続き地引綱などを行うほか、オリンピック・パラリンピック後の11月に当会が主管となって藤沢で県支部大会を開催し、田中総長や県下稲門会の役員等が一堂に会します。

この記念すべき年につき、同好会・サークル活動がより活発化して当会の魅力が増すよう、幹事一同全力を挙げる所存です。

末筆になりますが、皆様の益々のご健康を祈念すると共に稲門会活動への一層のご協力をお願い申し上げます。

厚木稲門会主幹で県支部大会を開催

神奈川県支部大会

11月2日、神奈川県支部大会が厚木稲門会主管で開催されました。レンブラントホテル厚木に300名程の県下各稲門会の校友が集まり、盛大かつ楽しい会でした。藤沢稲門会からは内田進会長を含め24名が参加しました。

当日は「高砂」を舞ってくださいました。笛・小鼓・大鼓・太鼓のそれぞれの説明も興味深いものでした。

その後懇親会に移り、賑やかに会話が弾み、また一興、「ハーモニカ八連符」のハーモニカ演奏と一緒に歌い、笑って、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

来年の主管は藤沢稲門会です。我々幹事が先頭に立ち準備を進めています。(山下扶佐子記)



総長を囲む藤沢からの参加者一同

穂 漣

海外事情にお詳しい田中愛治総長が「世界で輝くワセダ」「グローバルに」を強調されていて、世界の大学ランキングの上位に位置付けられる「ワセダ」を目指したい、とのお言葉に強く今後が期待されます。さらに大学からコーディネーターの方等5名、吉成征一厚木稲門会会長、鴻谷正博神奈川県支部長のご挨拶があり、さて、お楽しみ「能楽鑑賞」です。

観世流の清水寛二氏は校友で、在学中からお能を始められ、現在古典、新作と幅広く活躍です。



観世流・清水寛二氏「高砂」

第96回箱根駅伝予選会応援

第5回遊歩会

10月26日(土)朝7時に藤沢駅に内田進会長を含め11名が集合し、昭和記念公園へ応援に向かった。当初は40名近くが貸切バスにて応援の予定であったが、雨模様による足元を心配し、電車移動となった。9時過ぎには現地に到着。

43校もの参加で大勢の人数に予選会への期待、熱気を感じた。早稲田は13年ぶりの予選会だが、事前に配られたパンフに下馬評は高いとあり、心は予選会通過は確実の思いであった。

まずスタート地点に移動。応援の太鼓の音は聞こえるものの、既

く見えない。その為8キロ地点近くの沿道に陣取った。なかなか早稲田の選手が通過せず、テレビ放送で5キロ地点の10位迄の10人通過大学に早稲田の名が無心配した。主将の太田智樹選手の横断幕を持った関係者が当会のノボリを見て訪れ、そのうちに同選手が早稲田ではトップで通過。

過去4回の予選会応援に参加した遊歩会主催者もこれ程多くの人出は無かったとして急ぎ結果発表地点に移動した。発表地点の大型テレビでゴール地点の10人通過順位の7位を確認し、最終発表を待った。しかしそれはギリギリの9位であった。

途中ヒヤヒヤし、厳しい結果だ

第96回箱根駅伝

早稲田 希望をつなぐ

藤沢稲門会が総力を注ぐ駅伝応援イベントを、今年も鎌倉など近隣の稲門会、慶応三田会など多くの皆様のご協力により、2会場で盛大に行うことができた。

東地区は新たな遊行寺信号前「わた屋」様他の駐車

場、西地区は3年前の浜見山交差点の湘栄建設様駐車場で開催。そこで往路3区は井川龍人君、復路8区は太田直希君の氏名を連呼し

が、予選通過の安堵が勝った。周りから早稲田が出ないとつまらないとの話もいただいた。今回、テレビでは味えない雰囲気を感じることができた。

藤沢稲門会ではこれで箱根駅伝応援の準備を杞憂なく進めることができる。新年も数多くの校友の応援参加を期待した。(外岡 健記)



藤沢からの応援団



太田直希君



井川龍人君

その音声を全国に伝えてくれた。

今年の箱根駅伝は、両日とも晴天に恵まれ、厚底シューズ改良等により、区間新・大会新の続出する高速駅伝になった。

そんな中、我が早稲田は、予選会を勝抜いての参戦。期待と不安が入り混じり、2位から10位付近の順位。ハラハラドキドキしながらの応援になった。しかし、終わってみれば総合7位。まずは戦前

穂 漣

の予想を覆し健闘してくれた選手、監督に感謝。そして、これをバネに来年は優勝を目指すチームムヘ飛躍することを期待したい。

今年も2日目応援終了後、秋田

稲門会、相模原稲門会と共に恒例の懇親会を居酒屋で開催。いつにも増して熱の入った交流を行うことができた。

(中野正一 記/写真 洞江 良)

紅葉の高尾山ハイキング!

ハイキング

11月17日曜日、晴天の下に「紅葉の高尾山ハイキング」が行われた。

ミシユラングリーンガイドジャポンで三つ星評価された観光地で、世界一の登山者数を誇る。標高は599m、明治の森高尾国定公園にある。紅葉の時期でもあり、大変な入出。

行きは真言宗智山派大本山薬王院への表参道である1号路を浄心門を経て頂上へ約4kmのコース。

山麓駅からリフトに乗り山上駅へ12分間の空中散歩。薬王院への階段途中から見る紅葉の素晴らしさに大感動! 烏天狗のお迎えを受け一休み。三福団子やアイスクリームで疲れを癒す。頂上に到着後昼食弁当を摂る。

帰路は吊り橋を通る4号路。登山者の雰囲気味わいながら下山する。途中で沢山の人に行き交う。こんな時間から登る人の数に驚く。13名の参加者の内、4組のご夫婦。藤稲会の行事も夫婦二人で参



高尾山の山麓にて!

加の方が増えており喜ばしく感じました。天気にも恵まれて楽しいハイキングでした。高尾山は何回登っても良いと思います。

元 憲幸(昭和47・法学)

長後地区西部を巡って

史跡巡り

藤沢市内の史跡巡りは、今回の長後地区でほぼ一巡となる。11月27日、小田急線長後駅から、昼近くまでは生憎の大雨の中、参加者21名がリーダー吉澤氏の案内で歩き始めた。

長後は、旧高座郡渋谷町から分離して、藤沢市に最も遅く編入された地域だが、平安末期から鎌倉期にかけ、豪族渋谷氏の拠点で、

当時の大古道と滝山街道などの交差する要地であった。因みに東京渋谷は、この一族由来の地というコースは駅近くの仙元塚(もとは富士塚)に始まり、本妙寺跡、長後天満宮(もと渋谷氏の居館跡)、持田製糸場跡、3万年以上昔の石器や、7世紀頃の横穴古墳群発掘の代官山遺蹟(現在、藤沢総合高校)、永明寺、引地川遊水地などを巡り、市営の老人福祉セ



善然寺山門にて

善寺で、住職から宗派やお寺の由来などのご説明を拝聴した。本堂裏には、かつて大和市に住んだインドシナ難民の墓があった。隣の白山神社の招魂碑が珍しいのは、第二次大戦で戦没した地元出身者の命日、没地など個別に記されていたことであった。

解散は3時過ぎであったが、藤沢市北部の地域にもこのような歴史があったのだと、楽しく学んだ一日だった。

三瀬信道(昭和43・政経)

卒業生の祭典・稲門祭に参加

平成卒の会

稲門祭2019に、湘南稲門会平成卒の会(藤沢・茅ヶ崎・平塚・鎌倉稲門会)で初出店致しました。

湘南らしさを出すため、熊澤酒造(教育学部卒・茅ヶ崎稲門会平成卒の会)の湘南ビール・大仏ビール・ピルスナーの3種類で販売を致しましたが、初参加のため、場所が一番奥まっております、人通りもまばらで、金額的には、残念な感じでした。

しかし、若手の会のメンバー同士の絆が深まり、その後、LINEやFacebookのグループが立ち上がり、日常的に交流をするまでになってまいりました。

反省会には、相模原稲門会からも参加者があり、湘南地区に留ま



出店ブースの前で

らず、県下に若手のネットワークが広がりはじめたことが、稲門祭に参加した一番の収穫でした。

2020年は、今年の反省を踏まえ、再度、稲門祭に出店を計画しているのと同時に、湘南地区の稲門会を盛り上げる事業も検討していきたいと思っておりますので、その節には、先輩諸兄のご支援・ご協力の程、宜しくお願い致します。

杉下由輝(平成9・教育)



反省会の参加者一同

穂 瀧

片瀬旧道・江ノ島道沿い!

四季の会

四季の会(令和元年・秋)が11月16日(土)に開催されました。

今回は、藤沢市文化財ハイクンングコースのトップに位置する片瀬旧道・江ノ島道沿いにある名所・古刹の数か所をめぐり、新林公園までウォーキングする企画で、片瀬在住の鈴木昱生先輩からいただいた地元の高貴な資料を片手にワイワイガヤガヤと楽しく散策しました。

ウォーキングのみの参加者は川田博雄様のみで、総計11名の皆様は日頃の運動不足が祟ったのか予

定していた岩屋不動はスキップし、何とか終点の新林公園に辿り着きました。

その後、夜のみ参加の足立勲・中野美昭両名が加わり、割合評判が良く、このところ数回続けて使っている「まつだ家」にて宴会が行われました。



龍口寺山門にて

和気藹々な雰囲気の中で旨いものに舌鼓を打ちつつ美酒を堪能、痛飲し会話もとても弾んだ楽しいひとときでした。

田中雄一(昭和50・政経)

第一回「藤稲懇話会」を開催

藤稲懇話会

昨年11月9日(土)藤沢稲門会の新企画である「藤稲懇話会」が市役所5F会議室で開催された。

当日は、予想を超える40名近くの参加者が、午後2時の開始を目指して集合。

冒頭内田会長が、「藤稲懇話会」立ちあげの経緯について説明。藤沢稲門会には、飲み会の企画はいくらでもあるが、こうした文化的行事がほとんどないので、しっかりと推進していきたいとの決意が示された。

記念すべき第一回目の講演は、



第一回「藤稲懇話会」を開催



講師の神藤利路幹事

新人幹事である神藤利路さん(昭和51・商卒)が行った。神藤さんは銀行勤務時代、カード関係のお仕事を経験されていたので、消費税増税となったこの時期にふさわしい「日本にキャッシュレス決済は根付くか?」というテーマで1時

間にわたりお話をいただいた。時宜を得た内容でもあり、講演後、出席者から多くの質問が出された。会員が、気楽に集い、身近なテーマを学ぶ機会はありませんので、とても好評であった。

会としては、今後、年3〜4回のペースで、会員の中から講師を選び、この懇話会を開催していく方針である。

公平仲夫(昭和45・商学)

女性委員会

10月19日(土)に「フルードデュオによるミニコンサート」とランチがビストロ「ラ・シャンブル」(藤沢市石上)で開催された。

女性委員会では今迄に5回女性校友を対象としたプチ懇親会を開いてきたが、今回は藤沢稲門会男性幹事や横浜・鎌倉・茅ヶ崎の各稲門会女性幹事の方々にも参加して戴き21名が集った。

会は、チロル地方の民族衣装を着て清楚なフルードデュオ「Wiener Duo Jause」によるミニコンサートが始まり、小犬のワルツといったお馴染みの曲が演奏された。

間近での演奏に、二人の呼吸・指の運び・構えなどがみてどれフルートの柔らかい音色に心癒されながらも、奥にある力強さのようなものも同時に感じられた。



ビストロ「ラ・シャンブル」にて

ミニコンサートの後は、内田会長の挨拶・乾杯のご発声と続きお待ちかねのランチ。どのテーブルもボリュームたっぷり美味しい料理に楽しい会話が弾み賑やか。終盤に他稲門会幹事と今回初参加の校友に自己紹介をして戴き、2時半に散会した。

木下寛子(昭和51・法学)

ミニコンサートと食事会

文芸サロン

川柳(自由吟) 市川 嘉紀

苦いミス悔いて砂糖をつ入れ身構えた割には隙あるお人好し手鏡が俺とは違う顔写す堪忍は気弱な男の持つ美学一粒の涙で済まず懺悔録

穂 瀧

記念パーティーに参加

70年会

10月20日(日)、第54回ホームカミングデーが10時30分より新設なった早稲田アリーナで開催され、卒業50年という事で出席。1970年卒の我々は、これが最後の参加となります。

式は新任の田中総長の式辞や同期の弘兼憲史氏の講演等があつて厳かの内にも和やかに進められました。

終了後、我々70年卒業者はリイガロイヤルホテルに移り、12時より「1970年次稲門会」卒業

50周年記念総会及びパーティーに参加しました。

藤沢稲門会からは内田・公平・甘粕・下村・中野・脇坂・武田の7名が参加。司会は我等が公平氏幹事役大変ご苦勞様でした。おかげで藤沢稲門会会員にはいい席が確保されました。

当会の会長は元プロ野球の名選手谷澤健一氏。残念ながら氏は今回多忙のためビデオメッセージによる会長挨拶。同期の前総長鎌田薫氏から記念式辞、前及び元副総長の音頭による乾杯があつて、懇

「葡萄畑」訪問コンサート

藤 稲 歌 う 会

12月24日(火)、今年も総勢12名で、藤沢稲門会会員三觜貴義さんが運営されているグループホーム「葡萄畑」を訪問しました。

会は並木宏之さんの司会で進められました。まず唱歌メドレー7曲、その後、12月誕生日の二人を施設からのプレゼントと「ハッピーバースデー」でお祝いしました。

次に懐かしのメロディーと「ジングル・ベル」を歌ったところに大きな袋を背負ったサンタさんが現れ、入居者一人ひとりにプレゼントが渡されました。皆さんニコ



ニコなされて、その後の世界の名歌をみんなで大声で歌いました。

最後に、「もういくつねると」と「お正月」を歌って、和氣満々の内会を終了しました。

その後施設からのご厚意で私達メンバーにもケーキとお茶を出してください、三觜さんと懇談しながらおいしくいただきました。入居者の方々が、まるで練習していたかのように大声で歌ってください、私達の方が感動しました。

武田健二(昭和45・商学)



藤沢稲門会の参加者一同

親会・福引き等楽しい会でした。武田健二(昭和45・商学)



コーラスもプレゼント!!

SUC親睦交流会開催

第23回SUC(湘南ユニバーシティクラブ)親睦交流会が10月5日(土)に湘南クリスタルホテルで開催された。17校の地区校友会で構成され、今回は16校の約130名が参加。全国でも珍しい地区校友会の集まりである。藤沢稲門会からは内田会長を含め7名が参加した。

今年、青山学院大学が幹事校で高木隆夫青山学院校友会湘南支

部長及び来賓の鈴木恒夫藤沢市長の挨拶が始まった。

第一部は、同大学の社会情報学部岩井千尋元教授の講演があつた。現在同氏はトランペットの奏者でジャズバンドリーダー。神戸大学卒業後銀行に就職したが、現在に至る迄のジャズへの思いを楽しく語った。

第二部は、昨年幹事校の日本大学の湘南校門会の佐々木透会長の

乾杯、参加各校の2分スピーチが続いた。アトラクションは岩井氏が率いる5人編成のバンドの聴きやすいジャズ演奏。その後、女性ボーカルが参加し、大いに盛り上がり最後は「上を向いて歩こう」

を皆で歌った。
最後は、次回幹事の工学院大学湘南支部藤田直人支部長の挨拶で締めくくられ、散会となった。
(舛岡 健記)

藤稲連歌遊び

(短句後付け方式)

平成二十七年～二十八年

セリグはみんな弱くてみんないい

和むころにるカフエオレ

秋の日はふつとデジャビエー 遠い空

飛んで行きたや 母待つとこへ

つるべ落ち 干した洗濯 乾燥機

さんまの香り いすこより来る

自然薯の葉はまだ青しムカゴ飯

今宵楽しや 晩酌の味

雨だれを 久々に聴き テレビ消す

淋しさ温め 酒もまたよし

うたげ果て 二人寄り添ふ 秋上野

このひとときに 孤独なくさむ

帰り来て つわぶきの黄に 迎へられ

はや霜月の そぞろ寒さよ

捨てられて 眠る廃屋 枯小菊

座敷童がびよいと跳び出す

紅葉降る 民話の里の 国言葉

岩手は賢治 そして啄木

青春の 想ひのかえる チョコレート

自分の中に そつとしまひて

口紅は 赤還暦の 勝負色

昔はものを 思はざりけり

亡友仰ぎ ぐいと二気に 月見酒

女気もなし 戦ひの頃

椎の実を 蹴つては昔の 友想ふ

缶蹴りベーゴマ 綾取りした日

陰口も 言葉遊びに 気楽なり

観光バスの中は はしゃげり

尼御前も 越えし峠の 紅葉かな

昔と今の 旅の違いよ

冬隣り 空席多き バスにあり

デイサービスに 行く道すがら

能力も 老年にすり替え 気楽人

おつと危ない ます確認を

木枯らしに 窓閉まる見て 焼くくさや

後の始末は つれあいまかせ

その先は わからず師走 遊び会

帰つてみたら 靴はチクハグ

難民の 服装みんな 俺よりマシ

旅人はみな 無言で歩く

街道の 狹籠の軒の 柿すだれ

カメラ構える 人の多さよ

紅葉あせ 季節外れの 花主役

白寿祝いて 絵手紙を添え

カトリアに 叔母の喜ぶ 顔浮かぶ

一人暮らしの 月日も長く



行事予定

■定時総会・新春のつどい

日時・2月8日(土)

会場・藤沢市民会館

■地引網 ―湘南の潮風に遊ぶ―

日時・5月10日(日)

会場・鶴沼海岸 堀川網

「安」の字に「心」は付かず 年の暮
ちゃんちゃんこより 赤いオーバー
還暦や 運河またいで 冬花火
練御殿に 往時茫茫
枝越しの雲は動かず 冬ぬくし
時の流れは 止まることなし

編集委員長 舛岡 健
編集委員 高野尚志・中野正一
山口金雄・山下扶佐子